

# 日本語における形容語不足への補完について —— 魯迅の『阿Q正伝』の原本と和訳の対照を中心に

鄧

牧\*・陳

月 吾\*\*

## A study on the complement of deficient adjective in Japanese —— About the comparison between original and translation of LU XUN's <<A Q Zheng Zhuan>>

Mu Deng and Yue Wu Chen

Compared to other languages, there are not many adjective in Japanese. For example, the following two sentences: (1) Skin is very dry. (2) The shoes got sloppy. It is difficult to find out correspondent adjective of “dry” and “sloppy”. The Japanese always say : (1) hata ga kannsou siteiiru” (2) kutu ga bisyobisyoda instead. Like this, a variety of expression complemented the deficient adjective in Japanese.

For the quantity of adjective is large , I will focus on the comparison of adjective in the original and translation of LUN XUN's <<A Q Zheng Zhuan>>.

### 1. はじめに

他の言語と比べると、日本語は形容語が少なく不便だということは普段日本語を使用しているうち、常に気になることである。例えば、次のような中国語の表現がある。

(1) 皮肤很干燥。 (2) 鞋子全湿了。 (3) 这部电影很经典。

これらを日本語で表現しようとする時、「乾燥」「湿」「经典」に対応する日本語の形容語が見付からなくて困ってしまった末、日本人教師に聞いてみたところ、答えは(1)肌がかさかさしている (2)靴が濡れた (3)この映画がいつでも時代に遅れることはなく、とても素晴らしい作品だ のようなものになる。このように、適当な形容語がなければ、他の日本語の表現で形容語を補完するのである。これは興味深い問題だと思って考え始めたのである。<sup>注1</sup>

一口形容詞といっても、幅が広いため、『阿Q正伝』の原本と和訳に出てきた形容語の対照を考察してみたのである。そして、竹内好の訳本を主として、増田渉のも参考にした。

---

\* 教養部 \*\* 教養部

本稿は日本語の「形容語の世界」を垣間見ようとするつもりで書き上げたものである。中には不備不足なところが多々あると思われるが、皆様のご指摘をお願いしたいものである。

## 2. 中日両国語における「形容詞／形容語」の意味概念

### 2. 1 中国語の形容詞の意味概念

日本語と比べると中国語の形容詞の定義は簡単明瞭なようである。形容詞は、事物の性質、状態を表す語である。そして、「紅」(赤い)「小」(小さい)「大方」(気前がいい)のような性質形容詞と、「小小(的)」(的)「干干净净(的)」(的)「通红」「绿油油的」「怪可怜的」のような状態形容詞、という二つに分けられるのである。<sup>注2</sup>

### 2. 2 日本語における形容語の意味概念

学校文法では、「形容詞」と「形容動詞」は同じ用言に属する二つの品詞として勉強した。『広辞苑』には次のように定義してある、「形容詞は事物の性質、状態、心情などをその接続的、静態的な属性に着目して表す語」「形容動詞は事物の性質、状態を表す語で、内容の面で形容詞と類似している」。このように、形容詞と形容動詞はかなり親近性があると考えられよう。また、形容動詞は形容詞の語数を補うかのように発達してきた品詞という見方もある<sup>注3</sup>。であるから、『日本語教育辞典』(P126)の中には、形容詞は事物性質・状態や感情・感覚を表す語で、「大きい」「白い」「美しい」のような形容詞と、「真っ白な」「きれいな」「モダンな」のような普通形容動詞と呼ばれるものが含まれると書いてある。

そして、玉村文郎が「連体詞や形容動詞も含めた形容語全体、…」(『新しい日本語研究を学ぶ人のために』P18)というふうに「形容語」<sup>注4</sup>という概念を提出した。本稿では、『日本語教育辞典』と玉村文郎の説を参考して、「形容詞」のかわりに「形容語」という概念を使用し、そして、形容語の範囲は形容詞と形容動詞があると規定したいのである。

## 3. 中日両国語の「形容語／形容詞」の語数の比較

### 3. 1 基本語における日中両国語の「形容語／形容詞」の語数の比較

日本語と他の言語における基本語中の形容語の語数の比較について、言語学者はすでに研究されたのである。筆者は玉村文郎の研究<sup>注5</sup>を引用して少し整理してみれば、次のようになる。

(表1) 基本語における日中両国語の「形容語／形容詞」の語数の比較

		語数	形容詞 語数	%	形容語 語数	%
	中国語	3000	437	14.6	/	/
日 本 語	雑誌 90 種	1220	48	3.93	66.5	5.45
	分類語彙表	32600	590	1.81	1832	5.62
	同上中心語彙	7000	176	2.51	437	6.24
	国語教材	9428	196	2.08	431	4.57

このように、日本語の形容詞、形容語と中国語の形容詞の語数上の差は歴然としているのであろう。

### 3. 2 『阿Q正伝』の原本と訳本における「形容詞／形容語」の語数の比較

筆者は原本に出てきた形容詞を全部取り出して、その中に現在あまり使われない「悚然」、「怆然」など八つの形容詞と「闊人」「渾小子」のような形容詞と名詞の結びつきの強い言葉を除いて、数えてみれば185の形容詞がある。竹内好の訳本と増田渉の訳本に対応する形容詞の数はそれぞれ44と51、形容語の数はそれぞれ91と93である。これらの数字を次の表のようにまとめることができる。

(表2) 『阿Q正伝』の原本と訳本における「形容詞／形容語」の語数の比較

	『阿Q正伝』原本	『阿Q正伝』(竹内好)	『阿Q正伝』(増田渉)
形容詞語数	185	44	51
形容語語数	/	93	91

このグラフの示したように、『阿Q正伝』を日本語に訳す時、約四分の一の形容詞はそのまま訳されるが、約半分ぐらいの形容詞は形容語に訳される。そして、残った半分ぐらいの形容詞は日本語に訳す時、ほかの日本語の表現で補完されるのである。

### 4. 形容語不足への補完

前節では、『阿Q正伝』の竹内好の訳本の中に、185の中の93を形容語に訳されるということを見た。では、残った92の中国語の形容詞を他のどんな日本語表現で訳されたのかは、これから詳しく見てみよう。

#### 4. 1 品詞の変化

日本語の中には中国語に対応できる形容語がない場合、意味の近いほかの品詞で表すことができよう。訳本の中にはこのような例が 50 あって、そして、大体次の五つの場合がある。

##### ア、名詞

① (中) 最恼人的的是他头皮上, 颇有几处不知起于何时的癩疮疤。(P10)

(日) 最大の悩みの種は、頭に数カ所、いつからともかく、疥癬のあとは禿げになっていることである。(P106)

増田の訳本にも同じように「悩みの種」に訳された。中国語の「恼人的」に対応する日本語の形容詞というと、「悩ましい」が挙げられる。が、普段形容詞表現「悩ましい」より名詞「悩みの種」のほうがよく使われていると考えられる。

② (中) ……有些夏意了, 阿Q却觉得寒冷起来……。(P34)

(日) ……夏が感じられたが、阿Qだけは寒気がした。……(P125)

日本語には、「今日は寒い」のように「寒い」というちゃんとした形容詞がある。そして、「寒い」という表現で体が寒気を覚えるのを表せるのである。それにしても、文章を書く時や、また他人のことを言う時、形容詞の代わりに名詞「寒気+がする」という表現のほうが喜ばれるようである。

##### イ、動詞

上記のように形容詞を補完する名詞は訳本の中に 19 がある。この数を上回って、20 もあるのは動詞である。動詞の基本形、持続体そして過去形が名詞を修飾できるのは周知のことであろう。だから、ここで一つだけ例を挙げて説明しよう。

③ (中) 阿Q没有家, ……也没有固定的职业, ……。(P9)

(日) 阿Qには家がなく、……、決まった職もなく、……。 (P)

これは動詞の過去形「～た」で名詞を修飾する例で、ここでは他にあてはまる形容詞がないと言ってもよからう。

##### ウ、擬声語・擬態語

生き生きとした擬声語と擬態語は日本語を豊多彩にするだけでなく、事物への描写という点で形容詞と共通しているので、次のような例が多い。

④ (中) 看那, 他飘飘然的似乎要飞出去了! (P23)

(日) 見よ、彼はふわりふわりと、今にも空へ舞い上がりそうではないか。(P116)

これは擬態語の例で、この形のほかに「さっぱりする」のようなサ変動詞としての使い方もある。これを「イ、動詞」に分類した。

⑤ (中) 刹時中很寂静。(P 26)

(日) 一瞬シーンとなった。(P 119)

ここで、「一瞬静かになった」と言い換えれば意味も伝えられるが、短期間の雰囲気の変化を的確に表現するには、このような擬声語の使用が要求されるのであろう。訳本の中にこのような擬声語・擬態語の例が 10 ある。

エ、副詞

訳本の中には副詞で形容語を補完するのは次の一つの例しかないのである。

⑥ (中) 阿Q在精神上独不表格外的尊重。(P 10)

(日) しかし阿Qだけは精神的にとくに尊重を払う様子がなかった。(P 105)

4. 2 慣用句の使用

竹内好の訳本の中には、意味のあてはまる慣用句で訳される例が 10 ある。例えば、

⑦ (中) 但可惜这姓是不可可靠的, 因此籍贯也就有些决不定。(P 4)

(日) 残念ながらこの姓が当てにならぬので、にわかに原籍を決めかねるのだ。(P 64)

中国語の「可靠」を日本語に訳せば、何といたっても慣用句「あてになる」が一番適当だと言えよう。また、「格外胆大」(P 59) を「肝玉が太い」という慣用句に訳すのもなかなか適切なものと考えられるのであろう。

4. 3 説明の言葉の付け加え

中国語の特有の形式の形容詞もあるし、特別な意味合いの含まれる形容詞もあるので、説明の言葉をつけ加えずに単純な日本語の単語に訳すことは無理なこともある。訳本の中には、説明の言葉の付け加えによって形容詞を補完する例は 20 がある。

⑧ (中) 里面真是郁郁葱葱, 但似乎没有黄酒和馒头, ……。(P 35)

(日) そこは青々とした茂みだったが、黄酒や饅頭や……。 (P 126)

「郁郁葱葱」、「干干净净」のような形容詞は状態形容詞に分類され、中国語に特有な形容表現である。日本語で意味を十分伝えるために二つ、また二つ以上の単語を使わなければならない。似たように、「热刺刺的有些痛」(P 13) を日本語に訳すと、「飛び上がるように痛かった」(P 110) になったのも説明の言葉を付け加えたからである。

⑨ (中) 谁不知道你正经, ……。(P 27)

(日) あんたがそんなおんなじゃないこと、みんな知ってるよ…。 (P 121)

字引きをすると、「正经」はまじめである、正しい、まともななどいくつかの意味がある。ここでは、「吴妈」はまともな、特に男との関係にきちんとしているという意味が含まれている。だから、文脈によって、「そんな女じゃない」に訳すのはとても自然な日本語と感じられるのであろう。このほかに、「假正经」を「猫かぶり」に訳すような例はまたいくつかあるが、一つ一つ挙げるつもりはない。

#### 4. 4 文型の使用

日本語の習慣に従って、意味の同じ単語、慣用句、説明の言葉を用いても、不自然な日本語になることもある。この場合、日本語らしい文型を使うことが要求されるのである。例えば、

⑩ (中) 传的名目很繁多：……，而可惜都不和。(P1)

(日)伝記といってもさまざまある、…、そのどれも残念なことにびったりでない。

(P100)

中国語の「可惜」とちょうど対応する「残念」という形容語があっても、直接使っては違和感があるため、「形容語＋ことに」という文型を使うべきである。このような例は訳本には四つある。

#### 5. おわりに

本稿では中国語の形容詞と日本語の形容語の意味概念から始まって、それから、基本語と『阿Q正伝』の原本と和訳における中日両国語の形容詞／形容語の語数をグラフで比較してみた。最後は本稿の中心部分で、『阿Q正伝』(竹内好訳)における形容語の補完について考察した。この部分の内容を次のようにまとめることができよう。

(表3) 『阿Q正伝』(竹内好訳)における形容語不足への補完

		語数	%
形容語		93	44.3
品 詞 の 変 化	名詞	19	10.3
	動詞	20	10.8
	擬声語・擬態語	10	5.4
	副詞	1	0.5
慣用句の使用		10	5.4
説明の言葉の 付け加え		20	10.8
文型の使用		4	2.2

本稿は『阿Q正伝』をめぐって日本語における形容語の補完を検討してみたが、ただ一冊の本で形容語の世界を全部網羅することができない。また、『阿Q正伝』の言葉と現在使われている中国語と日本語とは多少相違があると思われる。これらの問題について、今後の研究に譲らせていただきたいと思います。

## 注釈

- 注1 竹内好と増田渉の訳本を読んで比べてみたら、竹内好のほうがもっと原本を忠実にしているように思われるので、竹内好の訳本を主とする。ただし、場合によって、竹内好の訳本に省略が生じる時、増田渉の訳本を参考することにする。
- 注2 この一段落は朱徳熙の『語法演義』のP 3 7とP 7 3を参照して、自分で日本語に訳したのである。
- 注3 『日本語教育辞典』のP 1 2 7を参照した。
- 注4 「形容語」の定義について、いろいろな方法で調べてみたが、残念ながら正式な定義を見つけられなかった。
- 注5 玉村文郎の『新しい日本語研究を学ぶ人のために』のP 1 9のグラフを参照した。

## 参考文献

『日本語教育辞典』	日本語教育学会	大修館書店	1982年
『新しい日本語研究を学ぶ人のために』	玉村文郎	世界思想者	1998年
『語法演義』	朱徳熙	商務印書館	1982年
《阿Q正伝》	魯迅	人民文学出版社	1976年
『阿Q正伝・狂人日記』	竹内好 訳	岩波文庫	1980年
『阿Q正伝説』	増田渉 訳	角川文庫	1992年

(平成17年12月2日受理)